

プラットフォーム会議に参加して

村岡 亜美（山形県立山形東高等学校2年）

1. 会議に参加して

私は教育に興味があったものの、教員になりたいという思いは強い方ではありませんでした。教員をなりたい職業の一つとして考えたことはありますが、あくまでそれは自分の夢を叶える手段のためでした。具体的な設計などは考えたことがなく、曖昧なイメージしかなかったので、初めはとても緊張していました。しかしその心配とは裏腹に、とても暖かく迎えてくださり、学びの多い素敵な経験ができました。このような貴重な機会をいただき、関係者の皆様にとっても感謝しています。ありがとうございました。

会議が終わったあと、教員の魅力とはどんなものなのか、私はその点をずっと考えていました。明確に教員の道を志したことがなかった私は、教員の魅力を深く考えたことがありませんでした。子供と関わることや、憧れだった先生に近づけることは、理由としてよく耳にしますが、私自身直接感じたことはありません。生徒の成長をリアルタイムで感じられることも、未来の人材を育成するといったやりがいも、私にはピンと来ませんでした。

そんな中、2度目の会議が行われました。もやもやを抱えたまま臨んでしまいましたが、各活動の報告を聞いて、すっと心が晴れるような気持ちになりました。それと同時に、私は人生において深い学びを得ました。それは教員を体験した、同じ高校生の感想を読んだ時です。体験を通し、それぞれが自分にしかない感性で魅力を見つけていたのです。教員になりたいという思いが熱を帯びたのがありありと伝わってくるその感想に、私は胸を打たれました。私はずっと、頭の中でしか考えていませんでした。しかし、この感想を読んで、経験から生まれる魅力がどれほど強く心を動かすものなのかを深く理解しました。

2. このプロジェクトについて

教員の志願者が減少している件について、たしかに教員は志願しにくい職業だと思います。教員という職業には、他の職業にはない魅力がたくさんありますが、それでも志す人が少ないのは、その裏に厳しさがあることを知ってしまっているからでしょう。学生にとって、最も身近な職業ともいえる教員は、良くも悪くも他の職業よりも実態が見えてしまいます。苦勞を乗り越えている先生方に憧れを持つ人ももちろんいますが、魅力だけではその苦勞を乗り越えられないと考える人が多いと思います。教員の負担を軽くすれば志願者は増えると思われませんが、簡単に解決できる問題ではありません。

この「教職の魅力創造プロジェクト」は、そんな中でつくられたのだと思います。すぐに解決できない問題がある中で、私達ができることはなにか。苦勞を乗り越える原動力となりうる魅力を、創造することではないでしょうか。

このプロジェクトでは、参加者の方々が自ら体験を通して魅力を創造していきますが、これは特に大きな意味を持つと思います。前述の通り、自らの経験から生まれる魅力は、とても大きな力を持っています。人から聞いた魅力は、情報の範疇に留まってしまいます。情報としての魅力は、他者に広める上では手軽で便利ですが、その分、効果は薄いものだと感じます。しかし、自ら体験し、創造した魅力は、情報ではなく経験として残ります。経験は、ありのままを他者に共有するのは難しいですが、だからこそ、自分の心の奥深くに残ります。他者と決して共有できない、自分だけしか知らない魅力です。この魅力は、苦勞や困難を乗り越える、自分特別の原動力となりうるのではないのでしょうか。